



Syslog 機能に関する追加情報

Session Border Controller (SBC; セッション ボーダ コントローラ) アプリケーションからのデバッグメッセージを確認するときに、syslog プロトコルを使用できます。ここでは、適切なログレベルを設定するために syslog プロトコルを使用する方法について説明します。

この付録で使用されるコマンドの詳細については、次の URL にある『*Application Control Engine Module Command Reference*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/docs/interfaces_modules/services_modules/ace/v3.00_A1/command/reference/cmdref.html

内部ログレベル

SBC アプリケーションでは、内部ログレベルを使用して、ファイルおよびコンソールに対するロギングを制御します (ファイルおよびコンソールに個別のログレベルを設定できます)。デフォルトの SBC ログレベルは、ファイルとコンソールの両方で 63 です。このデフォルトの SBC ログレベルは、**debug services sbc log-level console** コマンドまたは **debug services sbc log-level file** コマンドを使用して変更できます。

SBC アプリケーションの内部ログレベルは、syslog レベルにマッピングされます (<1-7>)。1 は alert (アラート)、2 は critical (クリティカル)、3 は error (エラー)、4 は warning (警告)、5 は notice (通知)、6 は informational (情報)、7 は debug (デバッグ) を示します。

ログレベル	Syslog レベル
80	alert
70	critical
63	error
60	warning
50	notice
40	informational
-	debug



(注) デフォルトの SBC 内部ログレベル (63) をほとんどの目的に使用できます。

Syslog 機能のイネーブル化

SBC で syslog 機能をイネーブルにするには、最初に内部ログレベルを設定し、次に syslog 固有のロギング コマンドを発行します。次の例では、デフォルト レベル 63（最初の再起動である場合はそれ以上のアクションは不要）を前提としています。

- 最初に、次のコマンドを使用してロギングをイネーブルにします。

```
host1/Admin# configure
host1/Admin(config)# logging enable
host1/Admin(config)# logging standby
```



(注) **logging standby** コマンドによって、アクティブおよびスタンバイの syslog 設定を同期できません。

- 次に、syslog メッセージの送信先を設定します。

- コンソール : ロギング コンソール <1-7>

```
host1/Admin(config)# logging console severity-level
```

- バッファ : ロギング バッファ <1-7>

```
host1/Admin(config)# logging buffered severity-level
```



(注) **show logging** コマンドを使用して、ロギング統計情報およびロギング バッファを確認します。



(注) **clear logging** コマンドを使用して、ロギング バッファをクリアします。

Syslog サーバ : ロギング トラップ <1-7>

```
host1/Admin(config)# logging host ip_address [tcp[/port] | udp[/port]]
host1/Admin(config)# logging trap severity-level
host1/Admin(config)# logging device-id {hostname | ipaddress interface_name | string
text | context-name}
```



(注) **logging device-id** コマンドを使用すると、リモート サーバにログを送信するときに、syslog メッセージをカスタマイズできます。

```
host1/Admin(config)# logging facility number
```

- Telnet セッション : ロギング モニタ <1-7>

```
host1/Admin(config)# logging monitor severity-level
host1/Admin# terminal monitor
```

- SNMP 管理ステーション : ロギング履歴 <1-7>

```
host1/Admin(config)# logging history severity-level
```

- スーパーバイザ : ロギング スーパーバイザ <1-7>

```
host1/Admin(config)# logging supervisor severity-level
```

- 次に、特定の syslog メッセージ操作を設定します。

```
host1/Admin(config)# logging message syslog_id [level severity_level]
host1/Admin# show logging message
host1/Admin# clear logging
```

- 最後に、グローバルな syslog 設定を設定します。

```
host1/Admin(config)# logging queue queue-size
host1/Admin# show logging queue
host1/Admin(config)# logging timestamp
host1/Admin(config)# logging rate-limit {num {interval | level severity_level |
message syslog_id} | unlimited {level severity_level | message syslog_id}}
host1/Admin# show logging
```



(注) 管理コンテキストのロギング キュー サイズは 8192 です。

